

# 短期大学部建設学科

平成14年4月

## はじめに

建設学科における卒業最低条件は、表1に示す単位以上を修得しなければならない。

すなわち、表1に示すように総合教育科目から12単位以上、基礎教育科目から7単位以上、専門教育科目から36単位以上、科目の区分によらない任意の単位7単位以上を修得しなければならない。これは短期大学の教育理念が、完成教育を目指したもので、諸君の勉学が一方に偏らず、広く建築全般にわたって学修できるようにしたものである。学園生活全般にわたり不明な点がある場合は、クラス担任の諸先生(表2)に相談すること。

次に、以上の事柄について詳しく説明しよう。

## 総合教育科目・基礎教育科目

専門教育科目以外は、表3に示すように総合教育科目・基礎教育科目の2グループに分けられている。各グループの卒業に必要な条件は、総合教育科目から12単位以上、基礎教育科目から7単位以上、計19単位以上を修得しなければならない。なお、理工学部建築学科への編入学希望者は、物理実験・を履修すること。

## 専門教育科目

専門教育科目は、表4に示すように必修科目(5科目・7単位)、共通選択科目(18科目・30単位)、コース選択必修科目に大別される。ここで卒業に必要な条件は、必修科目7単位と共通選択科目および選択必修科目から29単位以上を修得しなければならない。また選択必修科目からは、それぞれのコースで決められた必修扱い科目を含めて10単位以上を修得しなければならない。

なお専門教育科目の卒業条件は、必修・選択科目を含めて36単位以上を取得しなければならないが、選択コース以外の設置科目も自由に履修することができる。また科目区分によらず、建築を学ぶ上で幅広い範囲にわたって各科目を履修することが望ましい。

特に、サマーセッション(夏季集中授業)として行う授業もあるので注意すること。

## 必修科目について

必修科目(表4上部:5科目)は、すべての単位を修得しなければならない。なお、ゼミナールを除き原則と

表1 卒業に必要な最低単位

総合教育科目		12
基礎教育科目		7
	小計	19
専門教育科目	必修科目(5科目)	7
	選択必修科目	29
	小計	36
科目区分によらない任意の単位		7単位以上
合計		62

表2 クラス担任

学年	氏名	研究室	電話番号(内線)	E-mail(nihon-u.ac.jp)
1年	岩田 惇	大講堂体育館H	047-469(5298)	iwata@gaea.jcn.
	下村 幸男	926・C	047-469(5445)	shimo@arch.jcn.
	吉野 泰子	545・A	047-469(5479)	yoshino@arch.jcn.
	森田 吉晃	921・B	047-469(5480)	morita@civil.jcn.
	田所辰之助	546・B	047-469(5443)	tadokoro@arch.jcn.
2年	中山 優	545・B	047-469(5566)	nakayama@arch.jcn.
	黒木二三夫	546・A	047-469(5444)	kuroki@arch.jcn.
	羽入 敏樹	545・A	047-469(5479)	hanyu@arch.jcn.

してデザイン基礎、建築設計 および建築実験・は1年次において受講する。

### 1. デザイン基礎、建築設計

建築設計は建築の総合的表現の修得を目的とするものであるから、長時間の実技的な練習が必要である。そのためには、各課題を所定の時間内に確実に完了し、力量を積み重ねていかななければならない。

受講票は、建築設計専用の受講票を使用するが、これはガイダンスの際に配布するので、所要事項を記入し、写真を貼付して提出すること。

各課題については、中間指導日時、作品提出日時と指定の班別の担当師が課題別に発表される。中間指導は出題された課題について平面、断面などスケッチを提出して担当師の指導を受ける。

なお、病気、事故などで作品を提出できない場合は、提出日の前後1週間以内に理由書および診断書などを事務担当に提出し、その指示を受けること。また、建築デザインコースでは卒業制作は必修科目扱いとなる。

### 2. 建築実験

建築実験の内容を以下に示す。

- 建築実験 (i) 構造強度実験
- (ii) 光・色の実験

- 建築実験 (i) 鋼材実験
- (ii) 梁のたわみ実験
- (iii) 建築に関する化学実験

学年初めに各担当師より詳細な説明が行われる。実験は重複しないように指定の班別を実施されるので、スケジュールに従って受講しなければならない。

合否は出席・レポートの考査により各実験別に採点し、全実験の総合的な評価によって判定される。なお、レポート受理の際には受領書を渡されるので、合否が判定されるまで保管すること。

やむを得ない理由等により所定の班および期日に受講できない場合は、事前もしくは直後に各実験担当師へすみやかに申し出て指示を受けること。なお、建築実験・は必修科目、建築エンジニアリングコースでは建築実

験（セメント・コンクリート、風洞）、建築実験（振動・騒音）は必修科目扱いとなる。

### 履修科目の登録単位数の上限について

前学期および後学期の1年間に履修する科目として登録する単位数は、サマーセッションの履修登録単位数を含め50単位以下でなければならない。

詳細についてはクラス担任の指導を受け、十分注意して履修計画をすること。

なお、他コース設置科目も自由に履修することができる。

表3 総合教育科目・基礎教育科目

	授業科目	単位	履修方法	
総合教育科目	A 人間と社会			
	哲学	2		
	哲学	2		
	倫理学	2		
	倫理学	2		
	国語表現法	2		
	国語国文学	2		
	法学	2		
	日本国憲法	2		
	経済学	2		
	経済学	2		
	社会学	2		
	社会学	2		
	体育・スポーツ科学	2		
	スポーツ	1		
	スポーツ	1		
	スポーツ	1		
	B 言語とコミュニケーション			
	英語講読	1		
	英語購読	1		
英語表現法	1			
英語表現法	1			
科学英語	1			
科学英語	1			
ドイツ語	1			
ドイツ語	1			
C 総合テーマ				
教養ゼミナール	2			
基礎教育科目	微分法	2		
	積分法	2		
	行列と行列式	2		
	線形代数	2		
	微分方程式	2		
	微分方程式演習	1		
	統計学	2		
	統計学演習	1		
	物理学	2		
	物理学	2		
	物理実験	1		
	物理実験	1		
	化学	2		
	化学	2		
	化学実験	1		
	化学実験	1		
コンピュータリテラシ	1			
合計	65			

表4 専門教育科目

(コース必修科目扱い)

	1年次	単位	2年次	単位	履修方法	
必修	建築実験	1	ゼミナール	1		
	建築実験	1				
	デザイン基礎	2				
	建築設計	2				
共通選択	構造力学	2	特別講義	1		
	構造力学演習	1	海洋建築概論	2		
	建築材料	2	建築情報処理	1		
	一般構法	2	木質構法	2		
	建築計画	2	企画経営学概論	2		
	特別講義	1	福祉住環境概論	2		
	応用力学	2				
	応用力学演習	1				
	構造力学	2				
	構造力学演習	1				
	建築材料	2				
	建築計画	2				
	選択必修	工業数学	2	建築実験	1	
		情報処理	1	建築実験	1	
			応用力学	2		
			応用力学演習	1		
			構造力学	2		
			構造力学演習	1		
			建築施工法	2	エンジニアリングコース 選択科目	
			環境工学	2		
			環境工学	2		
			鉄筋コンクリート構造 土質及び基礎構造	2		
			コンピュータ支援構造解析	1		
			建築設備概論	2		
			構造設計法	2		
			鋼構造	2		
		振動工学	2			
選択必修	生活と住まい	2	卒業制作	2		
	建築史	2	建築設計	2		
	視覚伝達デザイン	1	建築法規	2		
			建築史	2		
			美術・様式史	2		
			空間デザイン	2	デザインコース 選択科目	
			デザイン・生産実習	2		
			建築メディアデザイン演習	1		
			建築設計	2		
			都市計画概論	2		
			デザイン論	2		
		インテリア計画	2			
		建築メディアデザイン演習	1			
合計	34	合計	62			